

＜熊谷特別支援学校の活性化・特色化方針＞

種別	肢体不自由	学部・学科	小学部・中学部・高等部	R7.5.1 児童・生徒数	(男) 78 (女) 55	計 133
アクセス	秩父鉄道 大麻生駅より徒歩 25 分、明戸駅より徒歩 20 分					
＜教育課程等＞						
○本校の教育課程は心身の障害の状況や発達の状況に応じて大きく 4 つに編成されています。						
▼類型Ⅰ・・・当該学年の指導内容・指導目標に準ずる教育課程						
▼類型Ⅱ・・・授業の遅れ、学習進度を考慮し下学年の指導内容・指導目標も含めた教育課程						
▼類型Ⅲ・・・知的障害の特別支援学校の学習を参考にした教育課程						
▼類型Ⅳ・・・自立活動の目標・指導の手だてが主となる教育課程						
※ 類型Ⅲ・Ⅳについても教科学習の目標を達成できるよう授業を行っている。						
＜学校行事・部活動＞						
○コミュニティ・スクールとして、交流及び共同学習等の機会において、地域と協働で児童生徒の学びと育ちを進める。						
○卒業生や PTA も参加し、児童生徒の日ごろの学習の成果を発表する場として夢祭（文化祭）を行っている。						
○各学部、ブロック単位で児童生徒の実態に応じた形態で体育祭を実施している。応援合戦、児童生徒が中心となつてのレクダンスや進行など、一人一人が輝く体育祭を実施している。						
○クラブ活動として熊特スポーツクラブを実施し、障害者スポーツに取り組み放課後の余暇活動を充実させている。						
＜家庭・地域との連携＞						
○学校説明会、授業公開を計 6 回、教育相談は個別に適宜実施している。						
○大学との連携、ボランティア養成講座を開催し、教育活動への応援団の力を有効に活用している。						
○共生社会の形成を目指し、近隣の小中高等学校との交流及び共同学習を積極的に行っている						
○「アートで築こう地域の輪」活動で児童生徒の作品をとおして地域とのつながりを大切にしている。						
＜進路＞						
○R6 年度高等部卒業生については、進学 1 名、一般就労 1 名、福祉的就労等 14 名（就労移行 1 名、就労継続支援 B 型 3 名、生活（療養）介護 9 名）である。						
○小学部・中学部の生徒は、それぞれ中学部・高等部へ進学。						
○寄宿舎が設置され、年齢が異なる集団生活を通して基本的生活習慣の確立が図られている。（今年度、寄宿舎利用者 36 名）						

育成方針（埼玉県立熊谷特別支援学校 ～児童生徒の成長物語～）



教育目標

かしこく 心豊かに たくましく

目指す学校像

児童生徒の障害特性や教育的ニーズを踏まえた最適な学びを進め、一人一人の良さや可能性を最大限に伸ばし、保護者・地域から信頼される学校

児童生徒一人一人の可能性を引き出す授業づくり

- 教育支援プランに基づく一人一人の課題や手立てを明確にした授業づくり
- 多様な教育的ニーズに対応するため特別非常勤講師や外部機関等との連携による支援体制の構築
- ICTなどを活用した「個別最適化された学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- 教職員一人一人の実践的指導力の向上（教員間の学び合い、優れた取組や成果の共有、研修の充実）



保護者・地域と連携した社会に開かれた学校づくりの推進

- コミュニティ・スクールとして地域との協働や積極的な情報発信
- 大学との連携、ボランティアの育成など、外部人材の積極的な養成と活用
- 特別支援学校のセンター的機能を活用した地域支援の充実
- 連続性のある多様な学びの場の充実（支援籍学習、地域連携等の充実）



高等部の目標

- 進んで学習し、よく考える生徒
- 社会的経験を広げ、人との関係を豊かにできる生徒
- 健康・安全に気をつけ、ねばり強く取り組む生徒
- 自律心を持ち、適切な進路実現のため努力する生徒

中学部の目標

- 人の心を思いやり、自分らしく豊かに生活できる生徒
- 持てる力を発揮し、心身ともにたくましく生きる生徒

小学部の目標

- 学んだことを生かせる子
- 友だちとなかよくできる子
- 最後までがんばる子

訪問部の目標

- 生き生きと明るい児童生徒
- 楽しく学習に取り組む児童生徒
- 心豊かな児童生徒

寄宿部の目標

- 舎生が年齢の異なる集団の中で多くの経験をすることで、心身の成長を促し、主体的に生活できる力の育成

自立活動部の目標

- 元気な心と身体を作る
- 一人一人の自立を考え心身の調和的発達を促す